

第2次安平町総合計画に向けたワークショップ「町民まちづくり会議」
～みんなで考える安平町の将来像～

第3回目テーマ	具体的な将来像の方向性を確認し、実現するための戦略を考えよう
---------	--------------------------------

平成28年7月26日（火）18:30～20:30
追分公民館2階 中ホール

第3回目のワークショップのねらい

- 10年後の将来像の方向性を確認します。
- 将来像を実現するための「戦略」をみんなで検討します。

第3回目のワークショップのプログラム

開会 (20分程度)	◇第3回目の主旨説明 ◇前回おさらい（事前配付資料と当日配付資料）
将来像の方向性を確認 (15分程度)	◇当日配付資料（振り返り資料）6ページに掲載した将来像の方向性 ①この方向性で良いか ②何か足りない視点や注意すべき視点はないか
SWOT分析の説明 (10分程度)	◇SWOT分析とは何か
ワークショップ (55分程度)	各分野における「成長戦略」「改善戦略」「回避戦略」「改革戦略」を検討しよう。
まとめ (20分程度)	◇ワークショップ内容のグループごと発表 ◇次回ワークショップ検討内容

ワークショップのルール

1. 他人の意見を尊重する（意見を否定しない）

- ・本日の話し合いに正解はありません。多様な意見に耳を傾けましょう。
- ・考えの方向性が違うときは、対案を示しましょう。
- ・様々な年齢・立場の方が参加していますが、皆さん町民として対等な参加者です。

2. 他人の意見への「相乗り歓迎」です

- ・意見に賛同するときは、「私もそう思う」と意思表示をしましょう。
- ・ある意見に「こうするともっと良いと思う」と意見を追加することも構いません。

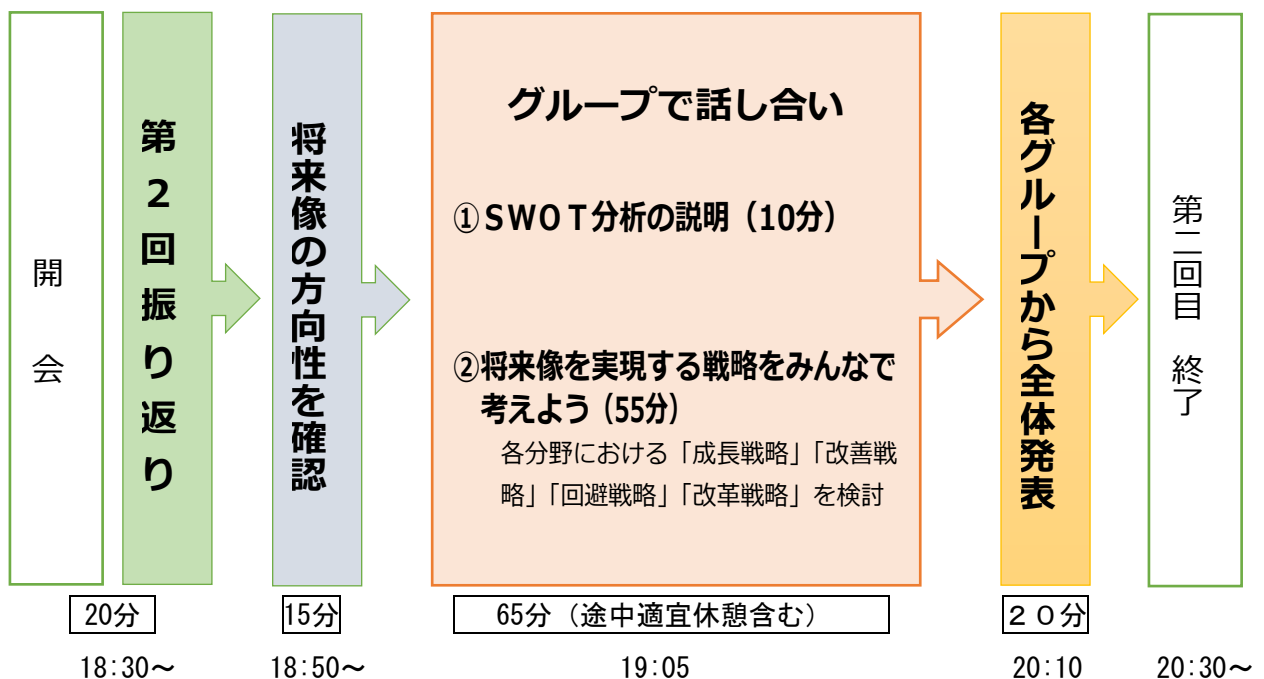
3. 発言は1回 30秒以内で

- ・できるだけたくさんの方に発言する機会を設けたいので、発言は長くなり過ぎないようにご協力ください。話の輪を回していきましょう。

4. 意見は文字として残しましょう

- ・本日出された意見は、次回までにまとめていきます。文字として残っていないと引き継がれませんので、意見はふせんに書き留めましょう。
- ・町職員が皆さんのスピードについていけず、発言を書き留められないときは、参加者の皆さんも書きとめる作業を手伝ってください。

【グループワークタイムスケジュール】



【メモ】

それぞれが発言された内容をメモして帰りましょう。

あらゆる世代が望む、全町民が望む究極の目標

夢と希望を持った子どもたちの笑顔があふれ
元気な高齢者が社会に貢献しながら生きがいを持って生き活きと生活し
町内外の人々の交流によって活気をつくり
暮らす人々が役割を分担しながら、発展していくことによって
生きることを楽しめるまち ここに住んでよかったと思えるまち

第1回町民まちづくり会議による将来像イメージ



10年後も子ども・若者・生産年齢世代がこの町に住んでいることが前提



これを実現するため、職員にも町民にも分かりやすい、具体的な将来像を設定し「チームあびら」の精神でチャレンジする。



「実現する可能性」は「まちの強み」にかかっている
どのスイッチを最初に押せば、起爆して他の分野に波及するのか
そのスイッチを探し 明確な目標を定める → 将来像

■町民まちづくり会議で40もの「安平町の強み(優れていること)」が出されました。

町民まちづくり会議で出された「まちの強み」(主なもの)

- [立地条件] ◇大都市に近くて「ほど良い田舎」 ◇鉄道・高速道路・国道など交通インフラがあり、空港・港に近い
- [生活環境] ◇牧歌的な風景と丘陵に広がる牧歌的な風景 ◇地域内に希少生物が多く存在
◇災害が少なく気象条件も良い ◇ある程度生活インフラが整備され、宅地の地価も安い
- [産業経済] ◇世界に誇るG1名馬(種牡馬)が集まる希少な地域 ◇北海道有数の作付面積を誇る菜の花
◇地域内に雇用があり、昼夜間人口比率(106.7%)が全国174位
◇メロン、和牛など、ブランド特産品が存在 ◇有機農業を含む新規就農が継続
- [健康福祉] ◇地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施
◇入院可能な民間病院がある
- [子育て教育] ◇地域に2つの公私連携型幼保連携型認定子ども園
◇コムスク・学社融合体制による幼小中高の連携が確立
◇文化・スポーツ活動で全国大会・全道大会への出場が顕著
- [コミュニティ] ◇都会にはない人情味の厚さ ◇意外にまとまりやすい町民気質
◇コミュニティ活動が未だに機能
- [行政運営] ◇行政が身近で住民意見の政策反映が早い
◇行政・地域住民が、意欲ある住民を応援する体制にある

「安平町ならではの強み」と言えるものを活かしてキラリと光るまちを目指す

■「安平町独自の強み」を活かした子ども・若者・生産年齢世代を取り込む具体策をまとめて終了しました。

①住民生活WG	町外からの通勤者に対するPRによって子育て世代を取り込むべき。
②インフラWG	まちの魅力を知ってもらい、学社融合事業など地域と連携した生活環境という魅力により住んでもらう。
③経済産業WG	基幹産業である農業を活かした「田園回帰」の場として移住につなげる。
④健康福祉WG	空港・港などに近く産業・商業の拠点となり得る場所。スポーツ施設を通じて子ども・高齢者の体力づくり健康づくりを図り住み続けられるまちへ。
⑤子育て・教育WG	人情が厚い適当な田舎が逆に強み。通勤者に安平町の人情を知ってもらい教育・スポーツの実績を町外へのアピール。空き家・中古住宅への住み替えを促進する。
⑥行政運営WG	子育て・教育・福祉環境（保健師）が整ってることから、平日都会で働く方が住む場所として最適。農業（6次産業）へのサポートも充実している。

各グループのまとめについては8ページ～12ページに掲載しています。

前回までの町民まちづくり会議では各グループでこんな意見も出ていました

他の自治体より優れた強みなんてあまりない。逆に弱みを克服することから始めるべきでは？

「魅力あるまち」実現に向け、あらゆる分野で住民満足度を向上させたい。
—これは町民も行政も共通の願い—

当然「弱みの克服」も必要

しかし簡単に実現できないものも存在



「具体的な目標」は、まちの強みがある実現可能な分野に絞るべき



ピーター・F・ドラッカー（経営学の父）

集中せよ 成長戦略は集中を要求する

成長戦略の最大の間違い、しかも最も一般的な間違いはあまりに多くの分野で成長しようとすることである

成長戦略は、機会のあるところに的を絞らなければならない。

自らの強みが異常なほどに大きな成果を生む分野に集中しなければならない。

行政は企業経営とは異なる。実現が難しい分野をあきらめるわけでも、切り捨てるわけでもない。当然「弱み」を克服するための戦略も考えていく。（病院・交通機関が不便 ⇒ 知恵勝負）

10年後も子ども・若者・生産年齢世代がこの町に住んでいるための重点分野とは？

分野	着眼点
①雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・現状はどうか ・強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか ・弱み（ハードル）を克服できるか ・将来推測（可能性）
②移住・定住	
③子育て・教育	
④住民生活（生活環境・行政サービス）	
⑤福祉・医療	
⑥商業振興	
⑦農業施策	
⑧交流人口拡大（観光）	

出された「まちの強み」を町職員で分析し、結論付けた将来像の方向性

最重点政策ポイント

子育て・教育分野

「子育て・教育」で他の自治体に負けない強みがあると分析

最重点政策ポイントと連動すべき政策

住宅政策（移住・定住）分野

「土地が安い」「都会に近い」「快適自然環境」にプラスして「子育てしやすい」が強みを増強

弱みを克服しながら強みを最大化する政策

福祉・医療分野

住民生活分野

農業振興分野

商業振興分野

雇用・企業誘致分野

弱みは知恵で克服

交流人口・観光分野

安平町の知名度向上は、全ての政策を成功させる上で必要となる政策

『子ども達の元気な声が地域に響くと高齢者も元気になる』『若い人がいなきゃこの町に未来はない』
町民まちづくりアンケート、団体ヒアリング、町民まちづくり会議で多く聴かれた声です。

逆に子育て世代からは『子育てを応援してくれるおじいちゃんやおばあちゃんには、いつまでも元気に活躍してもらいたい』という声が聴かれました。

地域の宝である未来を担う子どもの夢をみんなで応援しようという想いは、昔から安平町には存在し、体験学習では地域の方々が先生となるなど、地域によって子育てや教育が長年支えられています。

人づくりはまちづくり。これからも町民一丸となり子ども達に安平町の良さを伝え、明日のまちづくりを担う人材を育てていく責務が大人にはあります。

子ども達は、いずれ立派な若者に成長し、その一部は自分の可能性を信じ外の世界へと羽ばたいていくかもしれません。でも、暖かい人情により地域で教えられたことは、ふるさと愛としていつまでも心に残り、学んだことを大切にしてくれて、いつかは再び安平町に戻ってこようという気持ちにつながります。

そのために、私たちも未来に向けて準備が必要です。

まずは今いる私たちが、安心して生涯住み続けられるまちになること。

若者がこのまちではばたくことができる舞台を用意してあげること。

そして将来、立派に成長した若者と一緒に元気に活躍しているおじいちゃんおばあちゃんになれるよう自分の得意分野を磨いておくこと。

これが安平町を次の世代へ引き継ぐための準備となります。

町民と行政が一つにまとまり、この将来像に向かってまちづくりができれば、きっと多くの生産年齢世代の共感を生み、子育てしやすいまち、住み続けたいまちとして「選ばれるまち」につながるはずです。



「チームあびら」「夢に向かってはばたく子ども・若者をみんなで応援」

これを安平町の10年後の将来像の方向性（イメージ）とします

ま と め の 資 料

第2回町民まちづくり会議(ワークショップまとめ) P8-P13

未来創生本部専門部会(庁舎内会議)の分析 P14-P21

競走馬の名産地で空港が近い
ため観光地となる。また、産業
としても秀逸で若者の就職先とな
っている。



農畜産物の種類が多く良質である
ため、全国へ売り込める。



人口に対して生活インフラが整っ
ている。
(駅が4つある/道路が整っている/
役場、銀行で待たなくてよい)
そのためのんびり豊かに
生活できる。



◇競走馬の名産地で空港が近い
ため観光地となり、良質な農畜
産物と合わせると大観光地とな
る。

◇産業として成り立っているため
若者の就職先となっている。



**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

◆安平町の良い点はたくさんある。

しかし、安平町の町民がすべて知っているかというともうでもない。

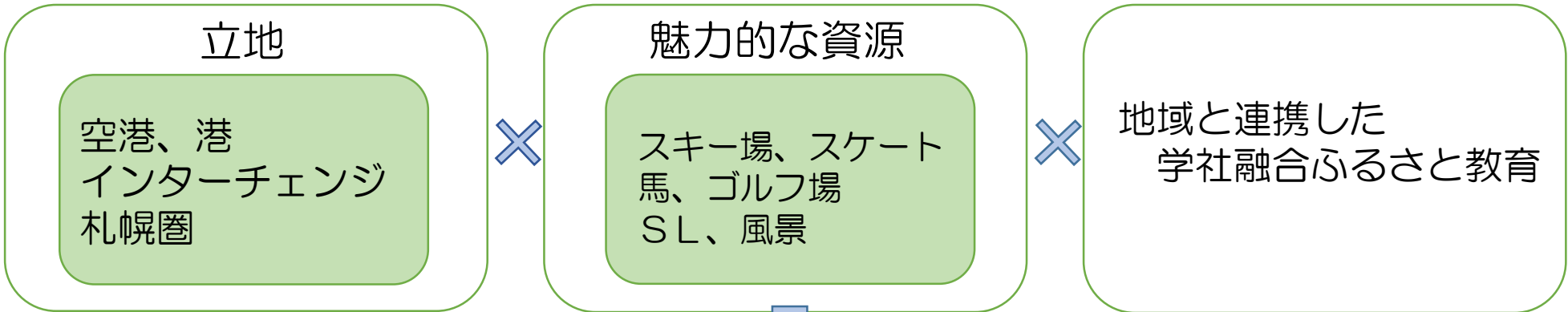
良い点をもっと町民が認識、集約、発信することが重要である。

◆日中町外から安平町に働きにくる方が多く、昼夜間人口比率が高い。

そういった方は、安平町へは職場にくるだけの体験であるため、安平町全体を体験してもらい移住マインドを持ってもらうことが重要であると思う。



②インフラWG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」



◇苫小牧や千歳だけでなく、空港や港から至近にあり首都圏からもアクセスが良いことを利用して、ゴルフ場、馬、牧歌的風景、スキー場、SLなど安平町の魅力を体験し知ってもらいながら、最終的には子育て世代の移住を促す。

◇地域と連携した学社融合ふるさと教育をPRしていくことで、より多くの子育て世代へ安平町に興味を持たせる。

➡ **それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

- ◆安平町の交通は、空港・港・IC・札幌圏に近いなど四拍子揃っており、他の自治体には負けない強みである。
- ◆スキー・ゴルフ・馬やSLの終焉の地であることは魅力的な資源である。これらが好きな人には、安平町に足を運んでもらい、さらには学社融合事業など地域と連携した生活環境という魅力により住んでもらうということを考えた。



農業（景観）



交通の利便性



小田舎（暮らし）
選択肢が多い



◇農業の稼ぐ力を活かして、
都会から人を呼び人の賑わいを創出する。

学校給食、農直、加工品開発



食育、ふるさと教育、健康



それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる

- ◆安平町の基幹産業である農業を活かし、都会から田舎へ移住定住するという「田園回帰」の場として魅力発信していくことが可能である。
- ◆農産物を活かした学校給食や農産物直売所など、農業に関連した活躍の場の創出などにより、子どもから高齢者まで様々なかたちで農業とのかかわりを持つことができるのではないかと。



交通の便

空港、JR
高速道路、フェリー



自然豊かで農・畜・林
など素材が良い



福祉施設

スポーツ施設の充実

野球・サッカー・水泳・ゴルフ
スケート・アイスホッケー
スキー・ゲートボール



◇子どもが豊かな自然の中で、安全でおいしい食べ物を食べながら成長し、本格スポーツ施設を活用することで健康な体を手にすることができるまち。

◇生産する大人に関しては農業・畜産・林業の素材の良さを活かし、
就農の場所としてアピールが可能。

◇独立意欲のある人に関しては、流通の良さや集客面において優位である。

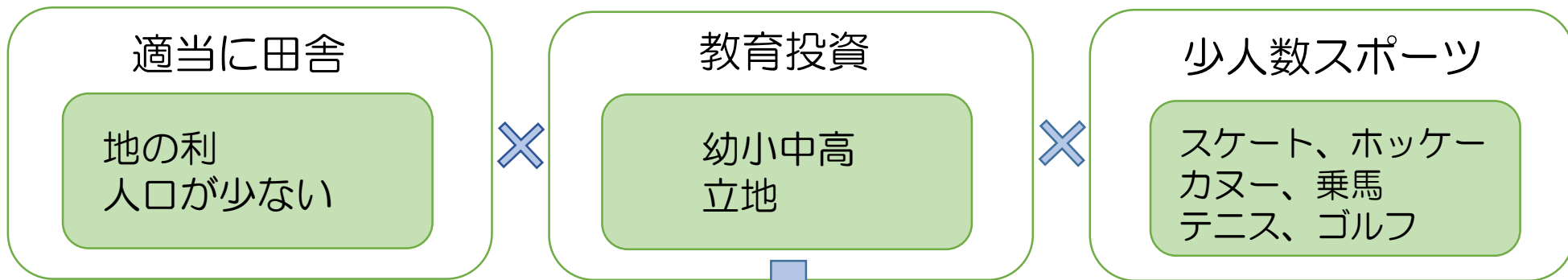


**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

- ◆交通の便が良く、30分圏内に多くの交通機関があるまちは少ない。
- ◆福祉施設・スポーツ施設に関しても、数多くあり充実している。
- ◆自然豊かで産業が充実している。
⇒これらは、子ども・高齢者の体力づくり健康づくりに寄与するとともに、
生産年齢世代における産業・商業の拠点となり得る場所である。



⑤子育て・教育WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」



◇現在8,300人
毎年100人増
出産とあわせ10世帯転入してくれれば・・・の設定



それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる

- ◆適当に田舎であることは、逆に強みとして捉えている。
それは、安平町に住む人の人情など人のあたたかさである。
⇒都市部に近い田舎である点に着目し、中古住宅・空き家の活用も検討できる。
⇒昼夜間人口比率の高さから、企業を巻き込んだ大運動会などにより安平町をPRし
働きに来ている人に対して人情から知ってもらうことも大切である。
- ◆教育・スポーツについても、実績が伴えば、町外へのアピールにつながる。



⑥行政運営WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」

都会に近くて
交通アクセスが良く
自然豊か



子育て分野を含めた
福祉が充実している



新しい農業基盤への
取り組みが可能



◇日頃都会で忙しく働きつつも、家族との生活は自然豊かな中で過ごせる。都会で働くための交通アクセスが充実。

◇子育てをしたり、老後を過ごすための福祉が充実し、安心して生活できる。

◇住んでいく中で、安平町の農業（6次産業）に自由に参入でき、他の産業にも波及していける。



**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

- ◆安平町から町外に通勤するための交通アクセスや子育て・教育・福祉環境が揃っている。
- ◆生活するうえでのサポート面（保健師やコミュニティスクールなどの活動）は充実している。
- ◆起業を考えている方のサポート面においても充実しており、6次産業化や新規創業の可能性のあるまちである。



■現状はどうか	○過去10年で既存企業の増設、旧公共施設を活用した創業で動きはあるが北町工業団地、追分工業適地への企業誘致は厳しい状況。
■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	○空港・港湾が近く輸送コストが安価。消費地も至近 ○工業団地は周辺に比べて分譲価格は安価 ○町内の雇用者は決して少なくない（H22国調⇒1,863人が通勤通学）
■弱み（ハードル）を克服できるか	○都市計画法の存在により、広大な敷地を確保できない。 ○工業用水が確保できない。 ○周辺大都市に大規模な工業団地が存在
■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	○震災以降、本州企業のリスク分散に可能性はあるが、苫東ほか周辺都市の工業団地に対抗できるかがポイント

〔専門部会意見〕

- ・大きな雇用を生む産業は工業用水が必要だが、安平町は水源に乏しい
- ・震災後の企業のリスク分散の動きは鈍い
- ・まずは、町内立地企業をしっかりと守り、町外通勤者1,800人を転入させる施策展開が重要
- ・なぜ通勤を選択するのか、安平町に住まない理由をしっかりと調査するべきである。
- ・重点政策の最初とはならないが、雇用確保は重要であり常に受け皿を設けておく必要がある。

雇用（企業誘致）⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）
ただし、受け皿対策はしっかり行う（立地企業に対する調査）

<p>■現状はどうか</p>	<p>○定住促進条例に基づく助成対象者の数は過去10年で若草団地2軒、ララタウン5軒、アイリス28軒、分譲地以外10軒</p> <p>○アパート建設助成により建設された民間賃貸住宅入居者は約6割が町外からの転入</p>
<p>■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか</p>	<p>○大都市が通勤圏内である。</p> <p>○アパート建設助成の過去例から、住宅確保で一定の転入は望める。</p>
<p>■弱み（ハードル）を克服できるか</p>	<p>○都会から通勤できるという逆の弱み（H22国調⇒1,863人が通勤通学）</p> <p>○千歳・苫小牧ともに土地区画整理事業による大規模な宅地開発を実施（ニーズに合わせて小さな区画で販売しており、坪単価が安い当町に有利性がない）</p>
<p>■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか</p>	<p>○都会の利便性を捨て当町を選択させるには、安価な土地・豊かな自然環境にプラスした魅力が必要であり、これにより移住定住を見込める。</p> <p>○経済状況等の現状を踏まえ、若い子育て世代は、必ずしも新築住宅の建設を希望していない可能性がある。</p>

〔専門部会意見〕

- ・今あるコミュニティ活動をいかに維持していくかが課題。その意味で移住対策は極めて重要。
- ・地区別の対応が必要。（追分地区は中古住宅の住替えを重視。早来地区は空き地の販売）
- ・大規模な宅地分譲は中期的にニーズが薄い。
- ・町外から町内企業に通勤する方がどうすれば転入するかをしっかりと調査するべき。
- ・民間賃貸アパートの家賃が高く同じ家賃なら都会から通勤を選ぶ声が多い。
- ・一軒家の借家を希望する子育て世代が非常に多い。
- ・子どもの保育・教育の状況を選ぶポイントとしている方が多い。（連動）

移住・定住 ⇒ 最初のポイント政策に該当

* 1,800人の通勤者をいかに安平町に居住させるかを検討

■ 現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> ○はやきた子ども園を今年度民営化（評価はどうか） ○追分地区児童福祉複合施設整備（確実なサービス向上が見込める） ○子育て支援は国としても重点課題であり、支援策が今後も要求される。
■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ○町内全域を対象とした2箇所の公私連携認定こども園が所在 ○地域住民と学校の距離が近く、加えて社会教育が連動性を持っており地域全体で子どもを育成する土壌がある。 ○コミスクの全校設置 ○スポーツ施設が充実（アイスアリーナ・スキー場など近隣には無い希少施設）
■ 弱み（ハードル）を克服できるか	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設の老朽化 ○児童生徒数の減少による教育効果の減退（学習面・部活動など） ○全国自治体が「子育て支援」を重点政策に掲げている。（競争に勝てるか） ○雨天の日に遊べる場所が少ない
■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て・子どもへの教育への関心は今後更に高まることが予想される。 ○子どもという共通項を通じた政策展開は全世代の納得性が高い。

〔専門部会意見〕

- ・周辺に勝るまちの強みは「教育」と「住環境」の2本以外に考えられない。
- ・こども園整備など、これまでの事業実績があり子育て・教育の分野は外せないが、ニーズは多様であり、弱みを克服できるかの覚悟が必要。
- ・ふるさと納税の使い道を子育て支援に明確化している上士幌町はわかりやすい。やるなら早い方が良い。
- ・今までと同じでは今までと変わらない。
- ・当町は、子育て支援やコミスクなど良い取り組みをしているが、それが町民に知られていない。PR手法を再考。
- ・教育は住民から見れば「どこにでもある。充実していて当たり前」の感覚がある。
- ・子育て支援と教育は、ターゲットは女性。移住・定住も決断者は女性。女性の視点が重要。

子育て・教育 ⇒ 最初のポイント政策となる。

* 1,800人の通勤者をいかに安平町に居住させるかを検討

■現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> ○道路・上下水道などインフラ整備が講じられている。 ○環境整備面（道路の雑草など）で不満の声は多い。
■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ○都会に近いながら、地域内に希少生物が多く存在する自然環境 ○大きな災害が無い。 ○鉄道、高速道路、空港、重要港湾に至近な「コンパクトな田舎まち」 ○降雪の少なさ、日照時間の長さという自然からの恩恵がもたらした全国屈指のメガソーラー発電所と世界最大規模の蓄電施設が町内にある。
■弱み（ハードル）を克服できるか	<ul style="list-style-type: none"> ○公共料金の高さ（上下水道料金） ○公共交通の利便性の低さ。 ○周辺環境（雑草など）に対する改善要望は多い。 ○インターネット環境が悪い（安平・遠浅・農村地区）
■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ○インフラ整備や公共交通網の改善、住民サービス料金の低減化など弱みを一気に克服するための投資は、財源的な問題もあり、克服できない部分もある。

〔専門部会意見〕

- ・ハード事業を劇的に変化させることは困難。10年間で弱みを克服することはできない。
- ・計画的に粛々とハード事業を実施するほかない。

住民生活（生活環境・行政サービス） ⇒最初のポイントにはならない（従たる政策）
* 財政を勘案し、計画的な対応が求められる。

<p>■ 現状はどうか</p>	<p>○子育て支援対策の拡充とともに、高齢者に対する健康寿命延伸事業にも力を入れている。</p>
<p>■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか</p>	<p>○自治会・町内会活動により、見守り活動など住民協働による福祉活動が盛んである。 ○民設民営の医療機関により第1次圏医療が確保されている。 ○乳児から就学前健診まで手厚く、子どもの医療助成無料化の対象も高校生まで拡大</p>
<p>■ 弱み（ハードル）を克服できるか</p>	<p>○全世代において「総合病院」の設置を望む声大きい。 ○専門職の人材不足</p>
<p>■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか</p>	<p>○行政としてこの政策分野の領域は、行政の根幹である。（可能性などとは別次元） ○ただし、住民ニーズが高い医療機関の整備という弱み克服は難しい部分がある。</p>
<p>〔専門部会意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉は重要であり、目標とは別次元である。 ・高齢者が生き生きと生活する社会を目指すことは行政の使命。 ・ただし、全世代が希望する総合病院の立地は実現可能性が低く、目標として掲げることは難しい。 	
<p>福祉・医療 ⇒ 最初のポイントにはならない。（従たる政策） * 弱み（医療機関）の克服では、広域連携に頼らざるを得ない。</p>	

■ 現状はどうか	○個店数は減少しており、今後10年後の存続が危ぶまれる店も多い。 ○町では今年度、創業支援計画を策定し、商店等継承者の確保対策を強化する予定。
■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	強みとして出されたものはない。 *ただし、町民アンケートでは「満足度が低く」「将来重要度が高い」
■ 弱み（ハードル）を克服できるか	○商店に活気がない。 ○空き店舗を活用したいが、住居と併せた店舗であり活用が困難。
■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	○団塊の世代がさらに高齢となる向こう10年において、買い物対策は大きな課題となるものであり、継承者や起業者をいかに獲得していくかが大きな課題であり、可能性の問題ではなく、取り組むべき重点課題である。

〔専門部会意見〕

- ・商工会、商業主の足並みが揃わない状況にあり、現段階で「強み」と呼ばれるものは1つも無い。
- ・今の経営者は生活でいっぱい状態で、全体でどのように活性化するかという視点にない。
- ・商店主は65歳になっても年金が無く商売を続けていかざるを得ないが、65歳を超えると銀行融資が得られない矛盾がある。この点をどのように支援するべきか。

商業振興 ⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）

■現状はどうか	○農家戸数は、年々減少しているが、当町は新規就農者が継続的に獲得できている。
■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	○少量ではあるが多品目の農産物 ○菜の花（菜種）など6次産業化の芽がある。 ○有機農業の新規就農にも寛容
■弱み（ハードル）を克服できるか	○農業後継者がなく離農を余儀なくされる農家が多い。 ○少量ゆえに、大規模農家と比較して生産性が低い。
■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	○少子高齢化により経済の縮小は避けられず、その意味で農業は今後国内で大きく注目される産業となりえる。

〔専門部会意見〕

- ・農業は当町では基幹産業であり、食育・グリーンツーリズムなどは大きな可能性がある。（長沼町はグリーンツーリズムの受け入れが間に合わない状況）
- ・農業も商業も住民が自ら生業として実施しており、町政よりも国政や経済に左右される。農業については町の政策をサポートする位置付けが良い。
- ・軽種馬産業も同様に、行政に頼ることなく、自主的な活動で成果を上げている。他に負けない絶対的強みがあるものの、町として接点がない状況にある。
- ・新規就農の獲得という面だけで主たる政策になるのは難しい（国の政策は大規模化（法人化・集積化））

農業施策 ⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）

<p>■ 現状はどうか</p>	<p>○回遊・交流ステーション形成事業を展開 ○目的型観光から町内回遊へ結びつける手法を検討中</p>
<p>■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか</p>	<p>○北海道らしい牧歌的な風景 ○地域内にクラスの異なるゴルフ場が5つ隣接 ○単純な軽種馬産業という区分ではなく、名馬（種牡馬）が集まる希少な地域 ○道の駅の建設</p>
<p>■ 弱み（ハードル）を克服できるか</p>	<p>○宿泊施設がない ○長時間滞在を可能とする商業的施設がない ○日本有数の軽種馬産地でありながら、まちづくりに活かせていない。 ○町の情報がわかりづらい。調べなければならない</p>
<p>■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか</p>	<p>○若者・生産年齢を取り込む上で、安平町の知名度向上は重要課題であり、「安平町を知り」⇒「一度訪れ」⇒「リピーターを増やし」⇒「一握りでも移住定住」の流れを作ることは必要</p>

〔専門部会意見〕

- ・人を引き付ける魅力はあり、道の駅も建設する。とにかく今必要なのは安平町のPRである。
- ・ターゲットを引きつける最初のきっかけとして力を入れる必要がある。

交流人口拡大（観光） ⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）
* 交流人口により町をPRし、そこから定住人口へつなぐ手段

- これまで町民まちづくり会議では「まちのいいところ（強み）」を出してきました。
- これは「具体的な将来像」を作るためにどうしても必要な作業でした。
- 第2回目の会議では、皆さんから「まちの弱みの克服が重要なのでは？」という声もちらほら
- 「将来像の方向性」が決まれば、**将来像を実現するための戦略検討に入ります。**



活用するのは「SWOT分析」という手法

①安平町を中から見た環境

【強み（持っている宝）】と【弱み（抱えている問題）】

と

②安平町を外から見た環境

【機会（プラス要因・追い風）】と【脅威（マイナス要因・逆風）】

をそれぞれ整理して安平町を分析する手法の1つ。

これを用いて、事業・施策や政策の「選択や集中」といった戦略を検討・立案するために活用します。（分析表を使用）

SWOT分析表

		内部環境	
		安平町の強み (Strength)	安平町の弱み (Weakness)
外部環境	機会 (追い風) (Opportunity)	【成長戦略】 「強み」によって「機会」をさらに活かす方向	【改善戦略】 「機会」を逃さないように「弱み」を改善する方向
	脅威 (逆風) (Threat)	【回避戦略】 「強み」を発揮して「脅威」を回避・克服する方向	【改革戦略】 最悪の事態を招かぬように弱みを克服し改革する方向



<それぞれを掛け合わせて戦略を考える>

- ①強み×機会 = 成長戦略 ⇒ (積極推進) …成長する機会を逃さない
- ②弱み×機会 = 改善戦略 ⇒ (弱点強化) …やり方を変えてみてはどうか (民間委託など)
- ③強み×脅威 = 回避戦略 ⇒ (差別化) …強みで逆風を見方にできないか
- ④弱み×脅威 = 改革戦略 ⇒ (問題回避) …そのままやっても失敗。発想転換が必要

仮想自治体におけるSWOT分析を用いた戦略例

		強み	弱み
			(あ)都市部へのアクセスの良さ (い)なまずの食文化 (う)のどかな田園風景 (え)一級河川流域都市 (お)宅地造成に必要な十分な用地
機会	(A)国道の開通 (B)イベント参加の需要 (C)体験型観光ニーズの高まり (D)スポーツイベントの参加需要 (E)ゆるキャラブーム	(A) × (お) = 新規住宅地の開発 (A) × (あ) = 企業誘致 (E) × (い) = ゆるキャラによるPR (C) × (う) = 自然体験型観光の実施	(E) × (ア) = ゆるキャラを用いた情報発信 (D) × (ア) + (カ) = スポーツイベントを利用したPR (C) × (ア) = 観光PRの強化(外部委託) (A) × (オ) = 新交通体系の導入 (C) × (カ) = 新たな地域資源の発掘
	脅威	(a)地域コミュニティの希薄化 (b)観光による環境モラル低下 (c)周辺都市の人口獲得レース	(a) × (あ) + (お) = 地域を巻き込む子育て支援 (c) × (あ) + (お) = ターゲットを明確にした定住人口獲得政策

SWOT分析による戦略検討における必要な視点

- ① **大都市と違い、安平町では人材、資金、情報、施設などに限りがあり、何でもできるわけではない。**

⇒安平町にあるものを活用して工夫するしかない。

例) ライフスタイルの多様化(機会) × 地域公共交通への満足度の低さ(弱み)
= 「JRやバスを町費を投入して大幅に増便する」……実現可能性はある？



あるものを活用し工夫できないか ⇒ 住民と民間交通事業者で新たな発想
(住民の車って活用できないの?)

- ② **誰が実現するのか考える必要がある。**

行政だけでは困難なものもは「チーム安平」で問題解決

行政、町民、企業、各種団体等の関係者の間での役割分担

⇒公民連携、行政(企業)とNPOの協働のあり方)

安平町におけるSWOT分析を用いた戦略(住民生活WG)

		強み	弱み
		(く) 人口に対して生活インフラが整っており、のんびり豊かに生活できる	(き) 地域公共交通(特にバス・JR)に対する住民満足度の低さ
		(し) 地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施	(け) 空き家の増加
機会	(D) ライフスタイルの多様化	(D) × (し)	(D) × (け)
	脅威	(a) 全国的な少子高齢化の進行	(a) × (く)
		(b) 人口減少社会の到来	

安平町におけるSWOT分析を用いた戦略(インフラWG)

		強み	弱み
			(あ) 札幌・千歳・苫小牧など都市に至近でありつつ豊かな自然のある「ほど良い田舎まち」 (き) 災害が少なく気象条件にも恵まれた環境
機会	(A) 安全・安心に対する意識の高まり (B) 情報通信技術の利活用のひろがり	(A) × (き)	(B) × (イ)
	(b) 人口減少社会の到来 (g) 公共事業の削減傾向	(b) × (あ)	(g) × (エ)

安平町におけるSWOT分析を用いた戦略(経済産業WG)

		強み	弱み
			(せ) 多種多様な農業(地産地消が可能でPRになる) (と) 全国屈指のメガソーラー発電と世界最大規模の蓄電施設が町内に存在
機会	(H) 6次産業化・農商工連携への関心の高まり (M) 北海道新幹線の開業	(H) × (せ)	(M) × (ソ)
	(e) 世界規模のエネルギー危機の懸念 (f) 経済低成長化、所得・雇用不安定化	(e) × (と)	(f) × (ウ)
脅威			

安平町におけるSWOT分析を用いた戦略(健康福祉WG)

		強み	弱み
			(う)地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施 (け)コミュニティ活動が未だに機能しており、地域見守り活動など行政の手が行き届かないサービスを町民が支えている
機会	(H) 地域課題を解決するビジネスへの期待	(H) × (う)	(H) × (イ)
	(a) 全国的な少子高齢化の進行 (g) 買い物難民の増加	(g) × (け)	(a) × (ウ)
脅威			

安平町におけるSWOT分析を用いた戦略(子育て・教育WG)

		強み	弱み
		(の)子どもの数が少ないながら、文化・スポーツ活動で全国大会・全道大会に出場している現状	(コ) 子どもを対象とした全天候型施設がない
		(な)地域に2つの公私連携型幼保連携型認定子ども園がある(できる)	(ソ) 学校施設の老朽化
機会	(A)安全・安心に対する意識の高まり	(F) × (の)	(A) × (コ)
	(F)健康やスポーツに対する関心の高まり		
脅威	(a)全国的な少子高齢化の進行	(I) × (な)	(a) × (ソ)
	(I)子育てに対する不安感や負担感の増大		

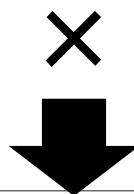
安平町におけるSWOT分析を用いた戦略(行政運営WG)

		強み	弱み
			(う) 既存の工業団地に多くの企業が事業展開 (え) 地域内に雇用があり、昼夜間人口比率(106.7%)が全国174位 (こ) まちづくり基本条例・町民参画推進条例の制定により協働のまちづくりに向けた施策が展開されている
機会	(J) 地域課題を解決するビジネスへの期待 (K) 「協働・参画型」のまちづくりへ	(J) × (こ)	(K) × (カ)
	(e) 経済の低成長化、所得・雇用の不安定化 (g) 公共事業の削減傾向 (h) インフラの維持費・更新費の増大	(e) × {(う)+(え)}	{(g)+(h)} × {(ウ)+(エ)+(サ)}

SWOT分析 戦略検討シート

機会 or 脅威

強み or 弱み



どのような戦略が考えられるでしょうか？

町民としての役割は？

実現できる可能性

%

次回、8月30日の第4回町民まちづくり会議において

引き続きSWOT分析による戦略検討を行います。

あらかじめ、「強み」「弱み」「機会」「脅威」から10年戦略を検討してみてください。（役場でも同様の作業を行います）